

むろまち 室町時代



長船町磯上に、「武士の館」だった堀城跡があります。ここには、現在、建物はたっていませんが、館を敵から守るための堀や土塁がよく残っています。

館の主は、島村氏の他はくわしく分かっていません。この辺りを支配していた武士の頭領が住んでいたことでしょう。

現地の説明パネルには、地元の方が、当時の様子を想像してつくった復元図が描かれています。これを参考にして、武士の時代に思いをはせてみてはどうでしょうか。



L 堀城跡

えど 江戸時代②



かいたいしんしょ 解体新書
しよほんぼん 初版本



江戸時代に、杉田玄白と前野良沢らは、オランダの「ターヘルアナトミア」という医学書を約3年半かけて翻訳し、「解体新書」として出版しました。この頃は、人間の体内を正確に著した医学書は日本にはなく、これにより、日本の医学は大いに進歩しました。

邑久町北島の中島医家資料館には、解体新書の初版本が4巻セットで残されています。また、当時の医療器具や薬の処方箋の版木なども見ることができます。

当時の医学の進歩の跡が、瀬戸内市でも見られるなんて、すごいことですね。

Q 中島医家資料館

せんごく 戦国・安土桃山時代



うきたなおいえ 宇喜多直家



戦国時代の邑久出身で、宇喜多直家という武将がいました。

直家は、知恵を働かせて、周りの武将を次々と倒し、領地を広げていきました。そして、現在の岡山城や表町の辺りに城下町をつくりました。

これが、今の岡山県の中心部の基となりました。直家が生まれた、「砥石城跡」は、山の上に築かれていて、

敵から攻められにくくなっています。山の頂上の本丸に登ると、美しい千町平野を見渡すことができます。



M 砥石城跡

めいじ 明治時代



にちろせんそう 日露戦争
ぐんいぐんぶく 軍医の軍服

明治時代に、日本は大きな戦争を二度行いました。

その一つが日露戦争です。1904年から1905年にかけて大国ロシアと戦った日本は、大きな犠牲をはらいながらも、日本海軍の海戦や奉天の戦いなどで勝利しました。これにより、国際的な地位が高まり、不平等条約が改正されることになりました。

邑久町の中島医家資料館には、この戦いのときに軍医が着ていた軍服とサーベルが展示してあります。この資料館では、他にも明治時代の顕微鏡なども見ることができます。

Q 中島医家資料館

えど 江戸時代①



きやうおうざんほんれんじ 経王山本蓮寺



牛窓町牛窓には、朝鮮通信使が立ち寄った、経王山本蓮寺があります。このお寺で、使節の人たちが食事や宿泊をしていました。

江戸時代の日本は、朝鮮国と正式に交流をしていました。牛窓町には、この時の交流の名残として、唐子踊という踊りが受け継がれています。

また、経王山本蓮寺近くには、御茶屋と呼ばれた、もう一つの朝鮮通信使の接待所の跡も残っています。

牛窓海遊文化館では、朝鮮通信使のことを楽しく学ぶことができます。

N 経王山本蓮寺

◎ 牛窓海遊文化館

P 御茶屋跡

たいしょう 大正時代

ゆめじせい か きねんかん 夢二生家記念館



邑久町本庄には、竹久夢二が生まれ、16歳まですごした茅葺屋根の家(現:夢二生家記念館)が残されています。

また、近くには、夢二が自分で設計し、東京に建てたアトリエ兼住居「少年山荘」が復元されています。夢二の唯一の建築作品と言えます。

夢二が生きた大正時代には、多くの雑誌が創刊され、夢二の挿絵が若い女性の間で大変人気になりました。

こちらの夢二生家記念館や少年山荘では、大正時代にタイムスリップした気分になって、夢二の素敵な絵画を鑑賞することができます。

R 夢二郷土美術館

ゆめじせい か きねんかん 夢二生家記念館・少年山荘